

(様式6-1)事後評価シート

番号	7	事業名	道路改築事業		市町村名	中川村～大鹿村		路河川名	(主)松川インター大鹿線	箇所名(ふりがな)	滝沢(たきざわ)		
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>主要地方道 松川インター大鹿線は、中央自動車道松川ICを起点とし、松川町から大鹿村を通り国道152号へ至る重要な路線であり、第二次緊急輸送路に指定されている。また、大鹿村と松川町、国道153号を介して飯田市を結ぶ生活道路としても重要な役割を担っている。</p> <p>一方で一級河川小渋川沿いの当該区間は幅員が狭小でカーブが連続し、車両同士のすれ違いや大型車の通行に支障をきたしている。</p> <p>二次緊急輸送路として、有事の際に通行を確保する必要があるが、当該箇所において落石の発生により通行止めとなることがあり、住民生活に影響を与えている。そのようななか、平成17年5月に落石による死亡事故が発生している。このため、県では抜本的な対策としてバイパス整備を計画し、平成18年度に道路改築事業に着手、平成21年度に完了した。</p>								②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価		
	<p>トンネルと既設橋の拡幅による改良工法を採用し、既存地形の改変を減らして自然環境の変化を最小限に留めている。</p> <p>・ 地域住民の生活、通勤通学時の移動時間短縮や落石危険箇所が解消され、生活環境がよくなった。</p>									A			
事業目的	<p>主要地方道 松川インター大鹿線は、中央道と国道152号を繋ぐ主要幹線道路である。また、当該路線は第二次緊急輸送路に指定されており、防災の観点からも重要な路線である。</p> <p>そのうち、中川村から大鹿村間の滝沢では、落石による通行規制が度々発生しており、その解消が急務となっている。このため、落石危険箇所を迂回するトンネル工事をを行い、通行の安全確保を図ることを目的としている。</p>								③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価		
	<p>バイパス完成後にトンネル点検、橋梁点検を各1回、道路パトロールを毎週1回行っており、良好な状態の確保に努めている。</p> <p>・ 道路維持活動に地域住民が自主的に参加している。(アダプトシステムを活用)</p>									A			
事業概要	当初工期	H18～H21	費用対効果(当初時)	1.9	事業費(千円)		財源内訳(千円)				④地域住民等の評価	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)	評価
	最終工期	H18～H21	費用対効果(評価時)	2.6	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源	<p>・ 中川村民、大鹿村民から、採石場からのダンプ等とのすれ違いがストレスなく走行できるようになったため評価が高い。また、通勤通学において落石による通行止めがなくなり、確実に通えるようになったことにも評価を得ている。</p>			
	当初計画内容(主な工種)	<p>全体延長 L=1,260m,W=6.0(7.0～8.0)m</p> <p>トンネル L=958m,W=6.0(7.0)m</p> <p>橋梁拡幅工 L=141m,W=6.0(8.0)m</p>		3,100,000	1,705,000	0	1,255,000	140,000					
	最終事業実績(主な工種)	<p>全体延長 L=1,260m,W=6.0(7.0～8.0)m</p> <p>トンネル L=958m,W=6.0(7.0)m</p> <p>橋梁拡幅工 L=141m,W=6.0(8.0)m</p>		2,213,721	1,401,254	0	685,650	126,817					
事業期間の延長、短縮理由と分析	<p>・ 当初の予定通りの事業工期で完成した。</p>								⑤事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況		事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況(A:貢献度が高い B:貢献している C:特になし)	評価	
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	<p>・ 工法の経済的な見直し及び差金により縮減されている。</p> <p>(鋼材価格が高騰化傾向にあったため、当初採用していた鋼製栈道橋から軽量盛土擁壁に変更した。)</p>								改善措置の必要性	特になし			
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)								評価	今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	<p>・ 完成から5年経過しているが施設が良好に維持されている。今後も施設点検等により適切に維持管理を行う。</p> <p>・ 本事業は、落石危険箇所を迂回するトンネル工事による通行の安全確保に加え、時間短縮効果が高く、地域住民等の評価も得られている。今後も同様な落石危険箇所の対策や山間部の道路拡幅において、工法選択の参考としたい。</p>		
	直接的効果(定量的・定性的)	<p>・ 落石による全面通行止めが発生していた区間を迂回でき、二次緊急輸送路として走行上の安全性、確実性が向上し、事業目的を達成している。</p> <p>(トンネル完成までの過去5年間の全面通行止め回数5回5日間規制→トンネル開通後0回)</p> <p>・ 落石危険箇所の解消(法面点検要対策箇所:当該区間4箇所→0箇所)、供用後の落石災害なし。</p>										A	
	間接的効果(定量的・定性的)	<p>・ 滝沢バイパスの完成により、路線延長が約1,700mから1,260mに約440m短縮され2車線化となったため、松川インター方面から大鹿村役場方面への到達時間を約5分短縮し、目的を超えた達成をしている。</p> <p>(松川インター→大鹿村役場:35分→30分)</p> <p>・ 消防車・救急車等緊急自動車の到達時間が約5分短縮されたことにより、緊急搬送の時間短縮と患者の負担軽減に寄与している。(高森消防署→大鹿村役場:33分→28分、大鹿村役場→下伊那赤十字病院(松川町):35分→30分)</p> <p>・ 落石による通行止時に、松川町から大鹿村に至る路線バスが運行休止や大幅な迂回を強いられていたが、トンネルの開通により確実な運行に寄与している。</p>											
	部意見	<p>・ 本事業は、落石危険箇所(4箇所)の解消により通行の安全を確保しており、事業目的を達成している。</p> <p>・ 地域から安全な通行が可能になった点が特に評価され、所定の事業効果が得られている。</p> <p>・ 走行時間の短縮、自然環境の保全、観光産業への寄与等、主たる目的以外に地域社会へ貢献している。</p>											
行政改革課意見	交通の円滑化と安全性が確保され、事業の目的を達成している。												